

3. 調査地点及び実施方法

暴露量調査（水質、底質及び生物）は、全国の都道府県及び政令指定都市に試料採取を委託（一部民間分析機関において実施）し、民間分析機関において分析を実施した。物質調査番号[12]～[21]の調査対象物質（主な用途が農薬）の水質調査については、散布時期を考慮した採水を実施することとした。

暴露量調査（食事及び室内空気）については、民間分析機関において試料採取及び分析を実施した。

（1）試料採取機関

試料採取機関名	調査媒体		
	水質	底質	生物
北海道環境科学研究センター	○	○	○
札幌市衛生研究所	○		
青森県環境保健センター	○		
岩手県環境保健研究センター	○	○	
宮城県保健環境センター	○	○	○
秋田県学術国際部環境センター	○	○	
山形県環境科学研究センター	○	○	
福島県環境センター	○	○	
茨城県霞ヶ浦環境科学センター	○	○	○
栃木県保健環境センター	○	○	
群馬県衛生環境研究所	○		
埼玉県環境科学国際センター	○		
千葉県環境研究センター	○		
東京都環境科学研究所	○	○	○
横浜市環境創造局環境科学研究所	○	○	○
川崎市公害研究所	○	○	○
富山県環境科学センター	○	○	
石川県保健環境センター	○		
福井県衛生環境研究センター	○		
長野県環境保全研究所	○	○	
静岡県環境衛生科学研究所	○		
愛知県環境調査センター	○	○	
三重県科学技術振興センター	○	○	
滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター	○	○	○
京都府保健環境研究所	○	○	
京都市衛生公害研究所	○	○	
大阪府環境情報センター	○	○	○
兵庫県立健康環境科学研究センター	○	○	○
和歌山県環境衛生研究センター	○	○	
神戸市環境局環境保全指導課	○	○	
岡山県環境保健センター	○	○	○
広島県保健環境センター	○	○	
山口県環境保健研究センター	○	○	
徳島県保健環境センター	○	○	
香川県環境保健研究センター	○	○	○
愛媛県立衛生環境研究所	○		
福岡県保健環境研究所	○	○	
北九州市環境科学研究所			○
福岡市保健環境研究所		○	
佐賀県環境センター	○	○	
鹿児島県環境保健センター	○		
沖縄県衛生環境研究所	○	○	

（注）名称は平成17年度のもの

(2) 調査地点（地域）及び調査対象物質

水質については表1-1及び図1-1、底質については表1-2及び図1-2、生物については表1-3及び図1-3、食事については表1-4、室内空気については表1-5に示した。その内訳は以下のとおりである。

調査媒体	地方公共団体数	調査対象物質（群）数	調査地点数等	調査地点ごとの検体数
水質	40	17	56	3 ^{**2}
底質	31	3	35	3
生物	12	8	12	3
食事	-	2	-	150 ^{**1}
室内空気	-	2	-	78 ^{**1}

(注1) 検体数

(注2) 物質調査番号[5]及び[6]については、茨城県大北川で17検体、福井県九頭竜川で9検体を調査した。物質調査番号[12]～[21]については、散布時期を考慮した採水を行い、採取日数を3日間とし計9検体を調査することとした。

表1-1 平成17年度暴露量調査地点・対象物質一覧（水質）

地方 公共団体	調査地点	調査対象物質																			
		[2]	[4]	[5]	[6]	[7]	[10]	[11]	[12]	[13]	[14]	[15]	[16]	[17]	[18]	[19]	[20]	[21]			
北海道	十勝川すずらん大橋（帯広市）	○	○	○	○	○	○	○													
	石狩川河口石狩河口橋（石狩市）	○	○	○	○	○	○	○													
札幌市	豊平川東橋（札幌市）										○	○	○				○	○			
青森県	十三湖	○	○	○	○	○	○	○													
岩手県	豊沢川（花巻市）	○	○	○	○	○	○	○													
宮城県	仙台湾（松島湾）	○	○	○	○	○	○	○													
	増田川毘沙門橋（名取市）																	○			
秋田県	八郎湖	○	○	○	○	○	○	○													
山形県	最上川河口（酒田市）	○	○	○	○	○	○	○													
福島県	小名浜港	○	○	○	○	○	○	○													
茨城県	利根川河口かもめ大橋（神栖市）	○	○	○	○	○	○	○													
	大北川（北茨城市）			○	○																
	利根川布川架橋（利根町）										○	○		○	○	○		○	○		
栃木県	田川（宇都宮市）	○	○	○	○	○	○	○													
群馬県	井野川（高崎市）	○	○	○	○	○	○	○													
埼玉県	元荒川（鴻巣市）										○						○	○			
千葉県	市原・姉崎海岸	○	○	○	○	○	○	○													
	荒川河口（江東区）	○	○	○	○	○	○	○													
東京都	隅田川河口（港区）	○	○	○	○	○	○	○													
	鶴見川亀の子橋（横浜市）									○	○	○		○	○	○		○			
横浜市	横浜港	○	○	○	○	○	○	○													
川崎市	川崎港京浜運河	○	○	○	○	○	○	○													
富山県	神通川河口萩浦橋（富山市）	○	○	○	○	○	○	○													
石川県	犀川河口（金沢市）	○	○	○	○	○	○	○													
福井県	九頭竜川（三国町）			○	○																
長野県	諏訪湖湖心	○	○	○	○	○	○	○													
静岡県	清水港	○	○	○	○	○	○	○													
	天竜川（磐田市）	○	○	○	○	○	○	○													
愛知県	名古屋港	○	○	○	○	○	○	○													
三重県	員弁川（桑名市）										○						○				
	四日市港	○	○	○	○	○	○	○													
	金沢川（鈴鹿市）										○							○			
	鳥羽港	○	○	○	○	○	○	○													
滋賀県	琵琶湖唐崎沖中央	○	○	○	○	○	○	○													
京都府	宮津港	○	○	○	○	○	○	○													
京都市	桂川宮前橋（京都市）	○	○	○	○	○	○	○													
大阪府	大和川河口（堺市）	○	○	○	○	○	○	○													
	大和川河口阪堺大橋（大阪市・堺市）										○	○	○	○	○	○					
兵庫県	姫路沖	○	○	○	○	○	○	○													
	加古川（三木市・小野市・加古川市）										○	○	○	○	○	○		○			
	美囊川（三木市）										○	○	○	○	○	○		○	○		
神戸市	神戸港中央	○	○	○	○	○	○	○													
和歌山県	紀の川河口紀の川大橋（和歌山市）	○	○	○	○	○	○	○													
岡山県	水島沖	○	○	○	○	○	○	○													
	呉港	○	○	○	○	○	○	○													
広島県	広島湾	○	○	○	○	○	○	○													
	徳山湾	○	○	○	○	○	○	○													
山口県	徳山湾	○	○	○	○	○	○	○													
徳島県	吉野川河口（徳島市）	○	○	○	○	○	○	○													
	高松港	○	○	○	○	○	○	○													
香川県	財田川稲積橋（観音寺市）										○	○		○	○						
	岩松川（宇和島市）												○								
福岡県	大牟田沖	○	○	○	○	○	○	○													
佐賀県	伊万里湾	○	○	○	○	○	○	○													
鹿児島県	五反田川五反田橋（いちき串木野市）	○	○	○	○	○	○	○													
	天降川（隼人町）	○	○	○	○	○	○	○													
沖縄県	那覇港	○	○	○	○	○	○	○													

[2] アニリン、[4] 1,2-ジプロモ-3-クロロプロパン、[5] 2-(2H-1,2,3-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4,6-ジ-tert-ブチルフェノール、
 [6] 2,4-ジ-tert-ブチル-6-(5-クロロ-2H-1,2,3-ベンゾトリアゾール-2-イル)フェノール、[7] 2,4,5-トリクロロフェノキシ酢酸
 (2,4,5-T)、[10] ピンクロゾリン (N-3,5-ジクロロフェニル-5-メチル-5-ピニル-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン)、[11] メトキ
 シクロロ、[12] 2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(2-プロポキシエチル)アセトアニリド（プレチラクロール）、[13] 1,3-ジチオラン-2-
 イリデンマロン酸ジイソプロピル（イソプロチオラン）、[14] ジチオリン酸 O,O'-ジエチル-S-(2-エチルチオエチル)（エチルチ
 オメトン又はジスルホトン）、[15] ジチオリン酸 S-(2,3-ジヒドロ-5-メトキシ-2-オキソ-1,3,4-チアジアゾール-3-イル)メチル-O,O'-
 ジメチル（メチダチオン又は DMTP）、[16] チオリン酸 O,O'-ジエチル-O-(5-フェニル-3-イソオキサゾリル)（イソキサチオン）、
 [17] チオリン酸 O,O'-ジメチル-O-(3-メチル-4-メチルチオフェニル)（フェンチオン又は MPP）、[18] チオリン酸 S-ベンジル-O,O'-
 ジイソプロピル（イプロベンホス又は IBP）、[19] トリクロロニトロメタン（クロロピクリン）、[20] a,a,a-トリフルオロ
 -2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-p-トルイジン（トリフルラリン）、[21] N-メチルカルバミン酸 1-ナフチル（カルバリン又は NAC）

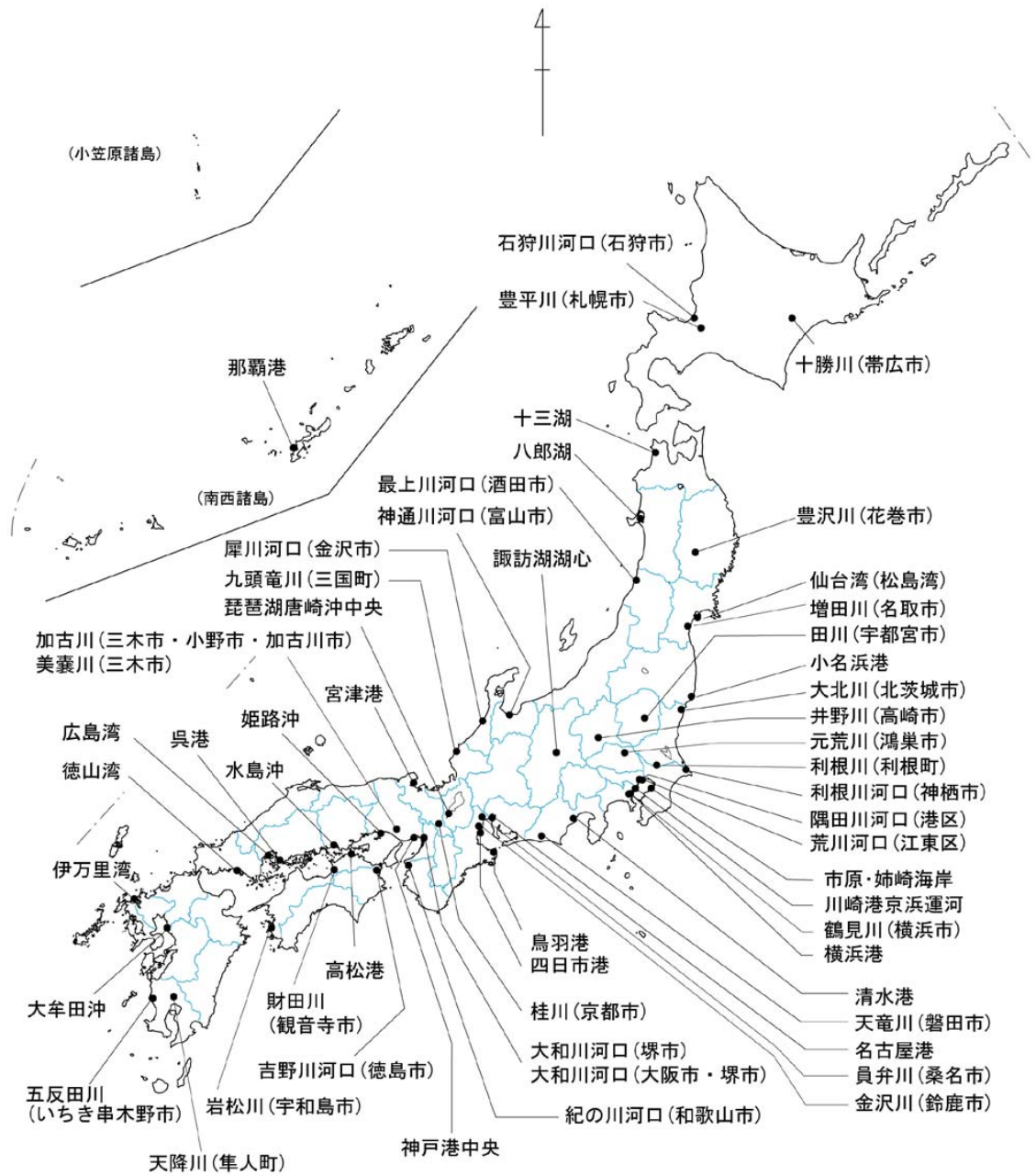


図 1-1 平成 17 年度暴露量調査地点 (水質)

表1-2 平成17年度暴露量調査地点・対象物質一覧（底質）

地方 公共団体	調査地点	調査対象物質		
		[8] ニトロフェン (NIP 又は 2,4-ジクロ ロ-1-(4-ニトロフェノ キシ)-ベンゼン)	[10] ピンクロゾリン (N-3,5-ジクロロフェ ニル-5-メチル-5-ビニ ル-1,3-オキサゾリジ ン-2,4-ジオン)	[11] メトキシクロル
北海道	十勝川すずらん大橋（帯広市）	○	○	○
	石狩川河口石狩河口橋（石狩市）	○	○	○
岩手県	豊沢川（花巻市）	○	○	○
宮城県	仙台湾（松島湾）	○	○	○
秋田県	八郎湖	○	○	○
山形県	最上川河口（酒田市）	○	○	○
福島県	小名浜港	○	○	○
茨城県	利根川河口かもめ大橋（神栖市）	○	○	○
栃木県	田川（宇都宮市）	○	○	○
東京都	荒川河口（江東区）	○	○	○
	隅田川河口（港区）	○	○	○
横浜市	横浜港	○	○	○
川崎市	川崎港京浜運河	○	○	○
富山県	神通川河口菰浦橋（富山市）	○	○	○
長野県	諏訪湖湖心	○	○	○
愛知県	名古屋港	○	○	○
三重県	四日市港	○	○	○
	鳥羽港	○	○	○
滋賀県	琵琶湖唐崎沖中央	○	○	○
京都府	宮津港	○	○	○
京都市	桂川宮前橋（京都市）	○	○	○
大阪府	大和川河口（堺市）	○	○	○
兵庫県	姫路沖	○	○	○
神戸市	神戸港中央	○	○	○
和歌山県	紀の川河口紀の川大橋（和歌山市）	○	○	○
岡山県	水島沖	○	○	○
広島県	呉港	○	○	○
	広島湾	○	○	○
山口県	徳山湾	○	○	○
徳島県	吉野川河口（徳島市）	○	○	○
香川県	高松港	○	○	○
福岡県	大牟田沖	○	○	○
福岡市	博多湾	○	○	○
佐賀県	伊万里湾	○	○	○
沖縄県	那覇港	○	○	○

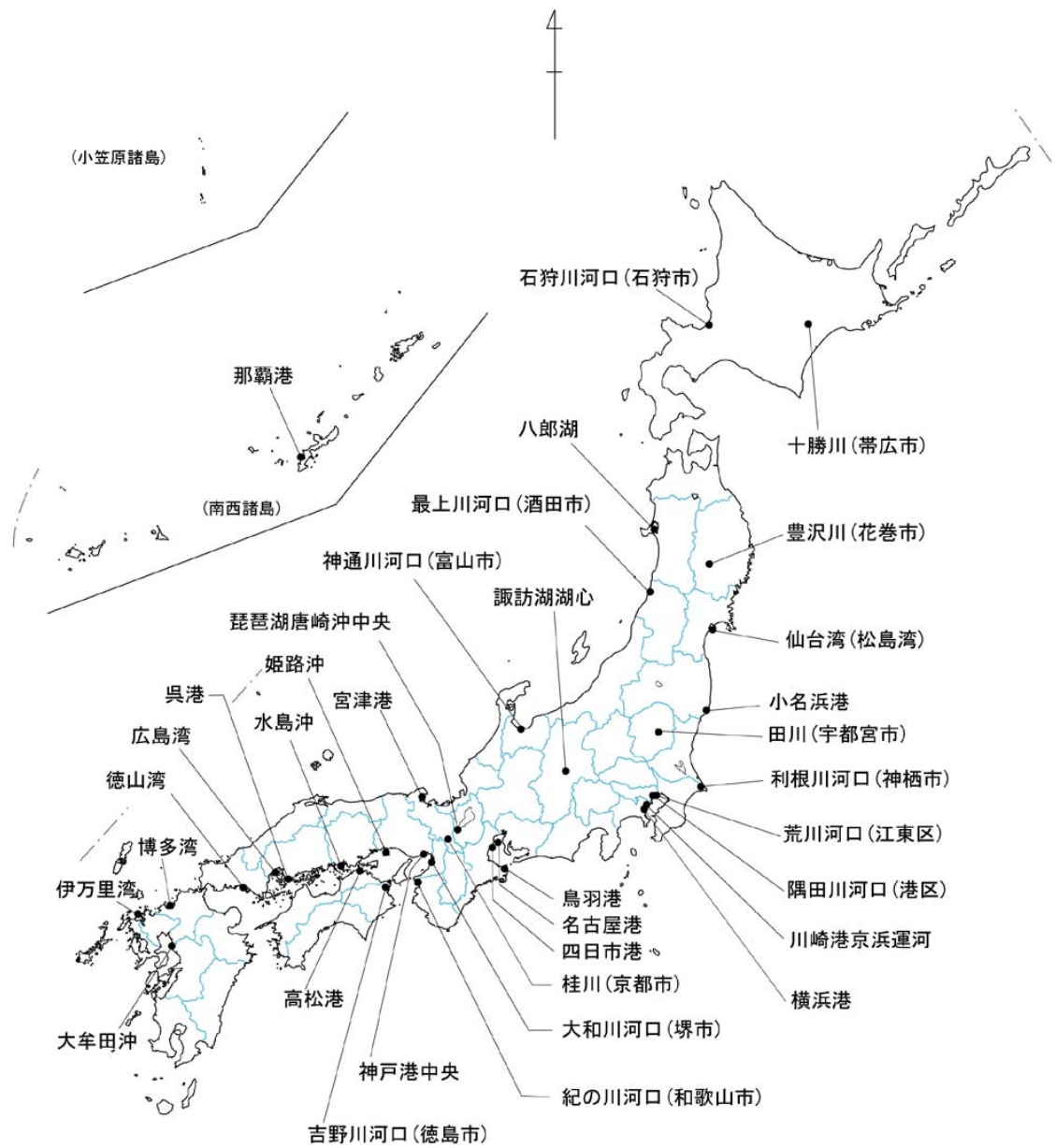


図 1-2 平成 17 年度暴露量調査地点 (底質)

表1-3 平成17年度暴露量調査地点・対象物質一覧（生物）

地方 公共団体	調査地点	生物種	調査対象物質							
			[10]	[11]	[12]	[13]	[14]	[15]	[20]	[21]
北海道	石狩川河口石狩河口橋（石狩市）	ウグイ	○	○						
宮城県	仙台湾（松島湾）	スズキ	○	○						
茨城県	常陸沖	サンマ	○	○						
東京都	東京湾	スズキ	○	○						
横浜市	鶴見川（横浜市）	コイ			○	○				
川崎市	川崎港扇島沖	スズキ	○	○						
滋賀県	琵琶湖安曇川（高島市）	ウグイ	○	○						
大阪府	大阪湾	スズキ	○	○	○	○	○	○		
兵庫県	姫路沖	スズキ	○	○	○	○	○	○	○	
岡山県	水島沖	ボラ	○	○						
香川県	高松港	ボラ			○	○	○	○	○	○
北九州市	洞海湾	カワハギ			○	○			○	

[10] ビンクロゾリン（*N*-3,5-ジクロロフェニル-5-メチル-5-ビニル-1,3-オキサゾリジン-2,4-ジオン）、[11] メトキシクロル、
 [12] 2-クロロ-2',6'-ジエチル-*N*-(2-プロポキシエチル)アセトアニリド（プレチラクロール）、[13] 1,3-ジチオラン-2-イリデン
 マロン酸ジイソプロピル（イソプロチオラン）、[14] ジチオリン酸 *O,O*-ジエチル-*S*-(2-エチルチオエチル)（エチルチオメト
 ン又はジスルホトン）、[15] ジチオリン酸 *S*-(2,3-ジヒドロ-5-メトキシ-2-オキソ-1,3,4-チアジアゾール-3-イル)メチル-*O,O*-ジ
 メチル（メチダチオン又はDMTP）、[20] α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-*N,N*-ジプロピル-*p*-トルイジン（トリフルラリ
 ン）、[21] *N*-メチルカルバミン酸 1-ナフチル（カルバリル又はNAC）



図 1-3 17 年度暴露量調査地点 (生物)

表 1-4 平成 17 年度暴露量調査地域・対象物質一覧（食事）

家庭内食事

調査地域	調査地点	検体数	調査対象物質	
			[1] アクロレイン	[3] 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸類（LAS） （アルキル基の炭素数が 10 から 14 までのもの）
北海道	北海道札幌市	1	○	○
	北海道札幌市	1	○	○
	北海道北広島市	1	○	○
	北海道札幌市	1	○	○
	北海道札幌市	1	○	○
宮城県	宮城県仙台市	1	○	○
	宮城県塩釜市	1	○	○
	宮城県登米市	1	○	○
	宮城県石巻市	1	○	○
	宮城県仙台市	1	○	○
東京都	東京都足立区	1	○	○
	東京都新宿区	1	○	○
	東京都江東区	1	○	○
	東京都杉並区	1	○	○
	東京都江戸川区	1	○	○
長野県	長野県中野市	1	○	○
	長野県長野市	1	○	○
	長野県千曲市	1	○	○
	長野県松本市	1	○	○
	長野県上田市	1	○	○
愛知県	愛知県名古屋市	1	○	○
	愛知県春日井市	1	○	○
	愛知県春日井市	1	○	○
	愛知県名古屋市	1	○	○
	愛知県清須市	1	○	○
石川県	石川県金沢市	1	○	○
	石川県金沢市	1	○	○
	石川県七尾市	1	○	○
	石川県七尾市	1	○	○
	石川県中能登町	1	○	○
大阪府	大阪府柏原市	1	○	○
	大阪府東大阪市	1	○	○
	大阪府堺市	1	○	○
	大阪府茨木市	1	○	○
	大阪府大阪市	1	○	○
愛媛県	愛媛県松山市	1	○	○
	愛媛県松山市	1	○	○
	愛媛県松山市	1	○	○
	愛媛県伊予郡	1	○	○
	愛媛県伊予郡	1	○	○
福岡県	福岡県福岡市	1	○	○
	福岡県福岡市	1	○	○
	福岡県福岡市	1	○	○
	福岡県春日市	1	○	○
	福岡県福岡市	1	○	○
沖縄県	沖縄県那覇市	1	○	○
	沖縄県中頭郡	1	○	○
	沖縄県沖縄市	1	○	○
	沖縄県石垣市	1	○	○
	沖縄県那覇市	1	○	○

インスタント食品

インスタント食品種類	食事内容	検体数	調査対象物質		
			[1] アクロレイン	[3] 直鎖アルキルベンゼン スルホン酸類 (LAS) (アルキル基の炭素数が 10 から 14 までのもの)	
冷凍食品	冷凍ピラフ	1	○	○	
	冷凍うどん	1	○	○	
	冷凍スパゲッティ	1	○	○	
	点心類	1	○	○	
	冷凍ハンバーグ	1	○	○	
	冷凍おにぎり	1	○	○	
	冷凍惣菜	1	○	○	
	冷凍野菜	1	○	○	
	冷凍フライ	1	○	○	
	冷凍ピザ	1	○	○	
	レトルト食品	レトルトカレー	1	○	○
		レトルトスパゲッティ	1	○	○
ソース類		1	○	○	
ベビーフード		1	○	○	
洋風スープ		1	○	○	
中華スープ		1	○	○	
ごはん		1	○	○	
かゆ		1	○	○	
惣菜		1	○	○	
弁当		1	○	○	
インスタント食品	カップラーメン	1	○	○	
	カップうどん	1	○	○	
	カップ焼きそば	1	○	○	
	インスタントラーメン (袋)	1	○	○	
	インスタントスープ	1	○	○	
	フリーズドライベビーフード	1	○	○	
	豚汁	1	○	○	
	粉ミルク	1	○	○	
	ごはん	1	○	○	
	パスタ	1	○	○	
缶詰食品	缶スープ	1	○	○	
	料理素材缶詰	1	○	○	
	水煮缶	1	○	○	
	シロップ漬け缶	1	○	○	
	調理済み缶詰	1	○	○	
	ミートソース缶	1	○	○	
瓶詰食品	ピクルス類	1	○	○	
	ジャム	1	○	○	
	ベビーフード	1	○	○	
	佃煮	1	○	○	
惣菜	惣菜-1	1	○	○	
	惣菜-2	1	○	○	
	惣菜-3	1	○	○	
	惣菜-4	1	○	○	
	惣菜-5	1	○	○	
	惣菜-6	1	○	○	
	惣菜-7	1	○	○	
	惣菜-8	1	○	○	
	惣菜-9	1	○	○	
	惣菜-10	1	○	○	

外食

外食店種類	食事内容	検体数	調査対象物質	
			[1] アクロレイン	[3] 直鎖アルキルベンゼン スルホン酸類 (LAS) (アルキル基の炭素数が 10 から 14 までのもの)
ファストフード	ハンバーガーセット等	5	○	○
和風どんぶりもの	どんぶりもの等	5	○	○
ファミリーレストラン	定食等	5	○	○
ステーキ・焼肉	定食等	5	○	○
すし	すし	5	○	○
ラーメン、そば、うどん、パスタ等	麺類等	5	○	○
中華料理	定食等	5	○	○
その他食堂	定食等	5	○	○
弁当店	弁当	5	○	○
パン店	パン	5	○	○

表 1-5 平成 17 年度暴露量調査地域・対象物質一覧（室内空気）

家屋

調査地域	家屋の種類	築年数	検体数	調査対象物質	
				[1] アクロレイン	
札幌市近郊	一戸建	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
	集合住宅	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
仙台市近郊	一戸建	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
	集合住宅	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
東京都近郊	一戸建	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
	集合住宅	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
	オフィスビル	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
大阪市近郊	一戸建	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
	集合住宅	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
	オフィスビル	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
福岡市近郊	一戸建	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
	集合住宅	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○
	オフィスビル	1 年未満	2		○
		1 年以上 10 年未満	2		○
		10 年以上	2		○

自動車

自動車の種類	使用年数	検体数	調査対象物質	
			[1] アクロレイン	[9] 3-メチル-4-ニトロフェノール
ガソリン車	新車(1 年未満)	2	○	
	3 年以上 5 年未満	2	○	
	7 年以上	2	○	
ディーゼル車	新車(1 年未満)	2	○	○
	3 年以上 5 年未満	2	○	○
	7 年以上	2	○	○

(3) 試料の採取方法

ア. 水質

- ・採水時期：採水日前において比較的晴天が続き、水質が安定している日を選ぶこととした。主な用途が農薬である物質の一部については、要望により、散布時期を考慮した採水を行うこととし、採取日数を3日間とした。
- ・採水部位：原則として、調査地点の流心において表層水（水面下 0～5 cm）を採取するものとした。ただし、必要に応じ、表面の浮遊ゴミ、浮遊油類を混入しないよう表層 1～2 cmを避けて採取することとした。
- ・前処理：ゴミ等を除去した上澄み水を、表面水が入らないように注意しつつ、用いることとした。ろ過、遠心分離等の処理は避けることとした。

イ. 底質

- ・採泥方法：調査地点において底質の性状を考慮したエクマンバージ型採泥器又はこれに準ずる採泥器によって採取した底質を清浄なバットに移し、小石、貝類、動植物片等の異物を除いた後、孔径 1 mm (16 メッシュ) で篩過したものを分析に供することとした。その際、泥分率（ふるいを通した試料の重量／ふるいにかける前の試料の重量）(%)を測定することとした。また、試料の一部について乾燥重量（105～110℃、2 時間程度）及び強熱減量（600±25℃、2 時間程度）を求めることとした。
- ・その他：分析用検体の場合は原則として風乾又は加熱乾燥を行わないものを使用し、計算で乾燥重量当りの測定値を算出することとした。

ウ. 生物

- ・採取試料：試料は調査地点で再生産される魚類とし、海域にあつてはスズキ（採取できなければボラ、サンマ又はカワハギでも可）、湖沼及び河川にあつてはウグイ（採取できなければコイでも可）を標準とした。検体としては同一個体を用いることが望ましいが、複数混合しても差し支えないものとした。ただし、小さな個体にあつては十分洗浄して用いることとした。
- ・前処理：可食部（筋肉）を検体とし、採取部分は問わないが、約 200 g 以上を削ぎホモジナイズした後、検体として用いることとした。200g 以下の個体にあつては数匹の可食部を削ぎホモジナイズして検体とすることとした。さらに小魚の場合には、200g 以上になるように魚類全体を何匹かとりホモジナイズしたものを検体とすることとした。
- ・脂質重量の算出：試料 5 g をホモジナイザーカップにとり、クロロホルム 20mL、メタノール 40mL を加えて 2 分間ホモジナイズした。さらに 20 mL のクロロホルムを加えて 2 分間ホモジナイズした。ブフナーロートでろ過し、沈渣は再びクロロホルム・メタノール（1：1）80mL とともにホモジナイズした。全クロロホルム、メタノール層を分液ロートにとり、60mL の蒸留水を加えてゆるく振り混ぜた。下層のクロロホルム層を集め無水硫酸ナトリウムで乾燥後、ロータリーエバポレーターで溶媒を留去し、残渣を五酸化りんデシケーター中で乾燥し、秤量した。

エ. 食事

- ・ 試料採取方法：家庭内食事については、全国を 10 地域に分け、1 地域につき 5 世帯を選定し、各世帯 1 日分ごとに、陰膳方式により収集した。試料は、1 日分（3 食+間食+飲料）ごとに試料採取容器（アセトン洗浄済の蓋付きステンレス容器 3L）に入れ、蓋を閉めて冷蔵保存することとした。連続した 3 日間分を合わせ、半解凍した後汚染に細心の注意を払いながらステンレス製ミキサーを用いすばやく混合均質化し、密封できる容器に保管し、試料 1 検体とすることとした。
- ・ その他：インスタント食品、外食についても、家庭内食事に準じて調製を行うこととした。

オ. 室内空気

- ・ 採取時期：室内空気におけるヒトへのリスクが最も高くなると考えられる時期として、室内換気が悪く、暖房機器が使用されている冬期に実施した。
- ・ 採取位置：室内における試料採取点の決定においては、換気の流れを把握し、換気の吸い出し口がある場合は吸い出し口近くに採取点を設定し、換気の吸い込み口側では採取点の設定を避けることとした。
- ・ 採取点の高さは 1.0~1.5m 程度とした。
- ・ 採取方法：室内空気を 0.1~1L/min の流速で 24 時間吸引捕集することとした。
- ・ 室内空気の対照として、室外空気を同様の方法で採取した。家屋の場合には、同一敷地内であり、当該建物の陸面より 5m 以内、室内空気を採取した場所と同じ階の屋外において、高さ 1.0~1.5m の空気を採取することとした。自動車の場合は、停止した自動車の側面から 1m 以内において高さ 1.0m の空気を採取することとした。

(4) 分析法

分析法の概要は章末に示すとおりである。